

排便機能障害外来について

01 排便機能障害外来って何？

排便機能障害外来とは、排便に関する問題、具体的には日々の便秘や、便失禁(便漏れ)などの症状で悩んでいる患者さんを専門的に診療する外来です。

以前より、便秘や便漏れ(便失禁)などでお悩みの方は多くおられました。しかし、「恥ずかしくて誰にも相談することができない」といった排便障害に対する羞恥心や、「そもそも病院で治療することなの？」など、なかなか病院へ足が向かないのが現状でした。

しかし、最近NHKの「ためしてガッテン」や、朝日放送の「たけしの健康エンターテインメント！みんなの家庭の医学」などのテレビ

番組でも、排便障害について取り上げられることが多くなり、病院で治療する一般的な疾患として認識されるようになりつつあります。

日頃排便障害でお悩みの方、精神的につらい思いをされている方、やりたいことが出来なくなっている方達と我々スタッフが一緒に排便障害の治療に取り組むことで、患者さんの日常生活の質(Quality of Life)の向上に少しでもお役に立てればと考えています。



02 そもそも便秘ってどんな症状？

『便秘』は若年の女性からお年寄りまで、多くの方が悩んでいる排便障害です。学校や仕事での不規則な生活、食生活の欧米化、ストレス、運動不足など様々なことが原因で便秘を起こします。

便秘は、RomeⅢ(米国消化器病週間において決定された機能性消化管障害の新しい分類)における診断基準では、右表のように定義されています。これに当てはまる方は多くおられると思いますが、ほとんどの方はそれほど重要視せず、市販の下剤などを使用されているのが現状だと思います。

しかしながら、次ページの図のように便秘には様々な原因があり、それをきちんと検査した後に適切な治療を受けなければ、非効率な治療、また場合によっては誤った治療になりかねません。薬物にしても、例えば市販薬でよくある大腸の働きを刺激する薬は、一時的には便排出があっても長期使用により逆に痙攣性便秘を引き起こし、量依存性になってしまう場合もあります。

便秘を認める方は、ぜひ適切な検査の上ご自身の病態にあった便秘の治療を受けられることをお勧めします。当科では、

食事療法、薬物療法、排便リハビリ訓練などの治療を行いながら、患者さんそれぞれの生活パターン、生活環境に応じた治療を提供できるよう努めています。



便秘度をチェックしてみよう！

2つ以上の項目にあてはまったら要注意!!

- 排便の25%以上の頻度でいきみがある
- 排便の25%以上の頻度で兎糞状便または硬便がある
- 排便の25%以上の頻度で残便感を感じる
- 排便の25%以上の頻度で直腸肛門の閉塞感または詰まった感じがある
- 排便の25%以上の頻度で、^{※できべん} 摘便・骨盤外を圧迫するなど排便の介助をしている
- 排便回数が週に3回未満



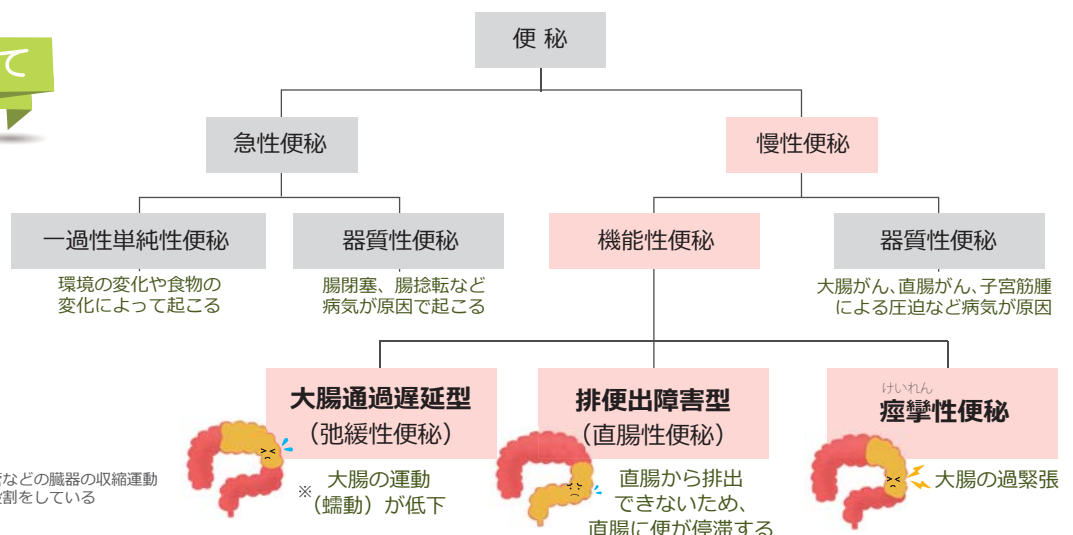
※直腸内に便がたまり、自然排便できないとき、肛門から指を入れ便を摘出する医療行為

便秘の種類について

便秘には様々な原因があります。自己判断をせず、きちんと検査して、適切な治療を受けましょう。



※蠕動(ぜんどう)運動とは消化管などの臓器の収縮運動のことで、内容物を移動させる役割をしている



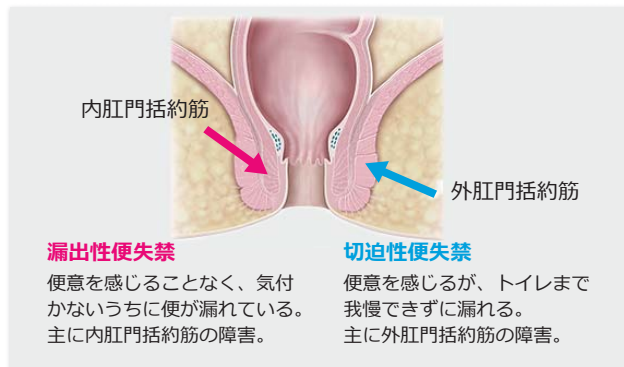


03 便失禁とは・・・？

「便失禁」では、いつの間にか気づかないうちに便が漏れてしまう(漏出性便失禁)、便がしなくなってトイレに駆け込むけど間にあわないで漏れてしまう(切迫性便失禁)などの症状を起こします。羞恥心もあり、なかなかまわりに相談できないことが多いです。20歳から65歳までの方で便失禁患者数は約300万人、65歳以上の方で約135万人の方が罹患していると推測されています。

このような症状でお悩みの患者さんに対し、直腸肛門検査など適切な検査を行うことで、肛門機能をつかさどる2つの筋肉「内肛門括約筋」・「外肛門括約筋」のうち、内肛門括約筋の機能障害による漏出性便失禁なのか、外肛門括約筋の機能障害による切迫性便失禁なのかを調べ、原因に応じた食

事療法、薬物療法、排便リハビリ訓練(バイオフィードバック療法)、仙骨神経刺激治療などの治療を行うことで、改善が期待できると考えています。



04 大腸がん(特に直腸がん)手術後の排便障害について

直腸がん手術を受けた患者さんの約3分の2の方は、程度の差はありますが、1回の排便で少量しか出ない、1日の排便回数が非常に多い、便漏れしてしまう、夜間就寝時に頻回の排便のため起こされ、睡眠不足になるなど、何らかの排便障害を起こすという報告があります。

当外来では、直腸肛門検査を行い、直腸がん手術後排便

障害の病態を把握し、患者さん一人ひとりの症状や生活パターンに応じた治療を提供できるよう努めております。

また、当院大腸骨盤外科では直腸がんの患者さんに対し、積極的に肛門温存手術を行っています。手術を行うだけではなく、当外来にて術後の排便機能のケアもしっかりさせて頂きたいと考えています。

05 排便機能障害外来を受診するには

排便機能障害外来は、外来での治療のみになっていますので、寝たきりの方や、認知症をお持ちの方など診療が困難な方は、申し訳ございませんがお断りする場合がございます。ご不明な点などございましたら、まずはお問い合わせ下さい。

受診する前にご確認ください!!

排便機能障害外来を受診するには、以下の項目について、自ら実施することが出来る方に限りますので、ご注意下さい。



- 自分で歩いて外来へ通うことが出来る方
- 自分で正確に排便日誌を記録できる方
- 自分で食事日誌を記録出来る方
- 自分で薬の管理を行うことが出来る方



- ◆ 診 察 日：毎週水曜日 午前・午後 [完全予約制]
- ◆ お 問 合 せ：『外科』外来受付 TEL：078-261-6711
- ◆ そ の 他：診察できない場合もありますので、まずは外科外来受付にお問い合わせください。